

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和 元 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	交通政策課担当課長 若林 篤	
共創-05	実施事業	交通環境整備事業	■ 自治事務	主管課 交通政策課
			□ 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	道路・交通体系の検討

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全で快適なまちをめざした交通環境をつくりだすため。
効果	公共交通機関における利便性の向上を図るとともに、慢性化する交通渋滞の解消や交通事故の減少を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

・市内の交通量を把握し交通対策上の基礎資料とするため、市内主要交差点等において、7箇所、一般交通量及び渋滞状況調査並びに資料収集を行った。
・「パークアンドライド」及び「鎌倉フリー環境手形」について、交通関係事業者等との調整を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算	30年度(2018年度)決算	データ区分	01年度(2019年度)当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	176,466人	人 口	176,436人	・各年3月31日(住民基本台帳)
	世 帯 数	81,150世帯	世 帯 数	82,444世帯	
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	3,053	当初予算(千円)	3,743	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他		その他	1	
	一般財源	3,053	一般財源	3,742	
	人員配置数	2.1	人員配置数	2.1	
事業経費運営	人件費(千円)	16,525	人件費(千円)	16,335	
	総事業費(千円)	19,578	総事業費(千円)	20,078	
	市民1人当りの経費(円)	111	市民1人当りの経費(円)	114	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
公 平 性	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
	受益者負担は公正・公平か	○-2. 適正な受益者負担を導入している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
	協働実施済	協働実施済の場合のパートナー 交通事業者、駐車場管理者
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直し類の ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他
		事業へ統合
予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 ・パークアンドライドを新たな箇所で開催する際には、用地の取得や借入れが必要となる可能性がある。また、周知費用も要することから、予算措置が必要となる。 ・鎌倉フリー環境手形の路線延伸実施の際にも、周知費用等が必要となる可能性がある。関係事業者等と連携し、財源確保に向けた調査・検討を行っていく。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	・パークアンドライド及び鎌倉フリー環境手形は、慢性化した交通渋滞の解消や公共交通機関の利便性の向上を図ることなどを目的としており、事業費削減の余地はなく、関連・類似事業との統合もできない。 ・パークアンドライド等の利用者は増加傾向であるが、利用できる駐車場が国道134号沿線に偏っているため、他のルートからの流入車両による交通渋滞の緩和には繋がっていない。しかし、交通渋滞の解消に向けた本事業に対するニーズは市民意識調査をみても高いと思われることから、今後も他のルート上における駐車場の確保など、市が行う必要がある。 ・パークアンドライド等は、交通事業者等との協働事業であり、社寺及び店舗からの協力を得て、特典等のサービスが受けられるような仕組みを構築し、適切に事業を実施している。	

課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	・パークアンドライドの利用促進を図るため、観光パンフレットにシステム内容を掲載し、PRを行った。 ・パークアンドライドの更なる利用促進に向け、寺社及び店舗から引き続き、協賛の協力を得た。 ・鎌倉フリー環境手形の利用促進のため、ポスターを作成し、主要な販売所に掲示した。	☐ 解決 ☐ 一部解決 ☒ 未解決
------------------------------	--	---

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方	
------------------------------	--

指標の内容	パークアンドライド、鎌倉フリー環境手形の利用数					単位	台 + 枚	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
当該事業の実施によって、自動車から公共交通への転換を図っているため。	目標値	29,000	30,000	30,000	30,000	38,000	38,000			
	実績値	34,798	36,626	37,307	37,389	32,640				
	達成率	120.0%	122.1%	124.4%	124.6%	85.9%				

当該事業実施に伴う 指標の推移に関する 考え方	・パークアンドライド等の利用者数は平成30年度は減少傾向となったが、今後も渋滞解消のために自動車から公共交通への転換を図っていくため、引き続き本事業を実施して、利用者拡大を図っていくことが重要である。 一方、現在の実施箇所は国道134号沿線のみで、利用者数を増やすことには限界がある。更なる公共交通への転換を図るためには、他のルートで新たな駐車場を確保した上で、当該事業を実施する必要があり、実施にあたり、新規駐車場が確保できた際には目標値を上方修正する。
--	--